



～第6号～ 稲刈り後の管理編

10月は高温傾向が続き、30°Cを超える日もあるでしょう。
11月は、気温は平年並みに落ち着きますが、急に冷え込み、
12月の気温は平年並みか低い見込みです。

1. 稲刈り後の圃場管理

◎秋起こし

- ①稻わらの分解不足で、稻の生育に有害なガスが発生する
稻わらをすきこんで分解を促進させ、ガス発生を抑える
- ②浮き藁を防止する

【ポイント】

- ①地温の高い秋、遅くとも12月までに行う
- ②石灰窒素・わらゴールド・ケイカルを秋起こしの時に
施用すると、稻わらの分解が促進される



◎ケイ酸資材による土づくり

- ①高温下で、収量・品質が向上する
- ②倒伏が軽減する
- ③いもち病が軽減する

【ポイント】

稻刈り後～田植え前に、ケイ酸資材を施用する。

2. ジャンボタニシ対策

- ①ジャンボタニシは寒さに弱いので、
厳寒期に耕うんし、寒さにさらす
- ②耕うんは走行速度を遅くし、
回転数を早くすることで、貝をつぶす
- ③ピンクの卵は水中に落とす
白い卵は水中でもふ化するのでつぶす
- ④寒さにさらすため、水路の泥上げを行う
地域全体で行うと効果的



3.雑草対策

- ◎オモダカ、クログワイなどの多年生雑草、ヒレタゴボウ
- ①秋冬に数回耕運し、塊茎を損傷させる
②地上部分の雑草が枯れる前に、
非選択性除草剤（ラウンドアップなど）を散布する。
※ドリフトに注意する

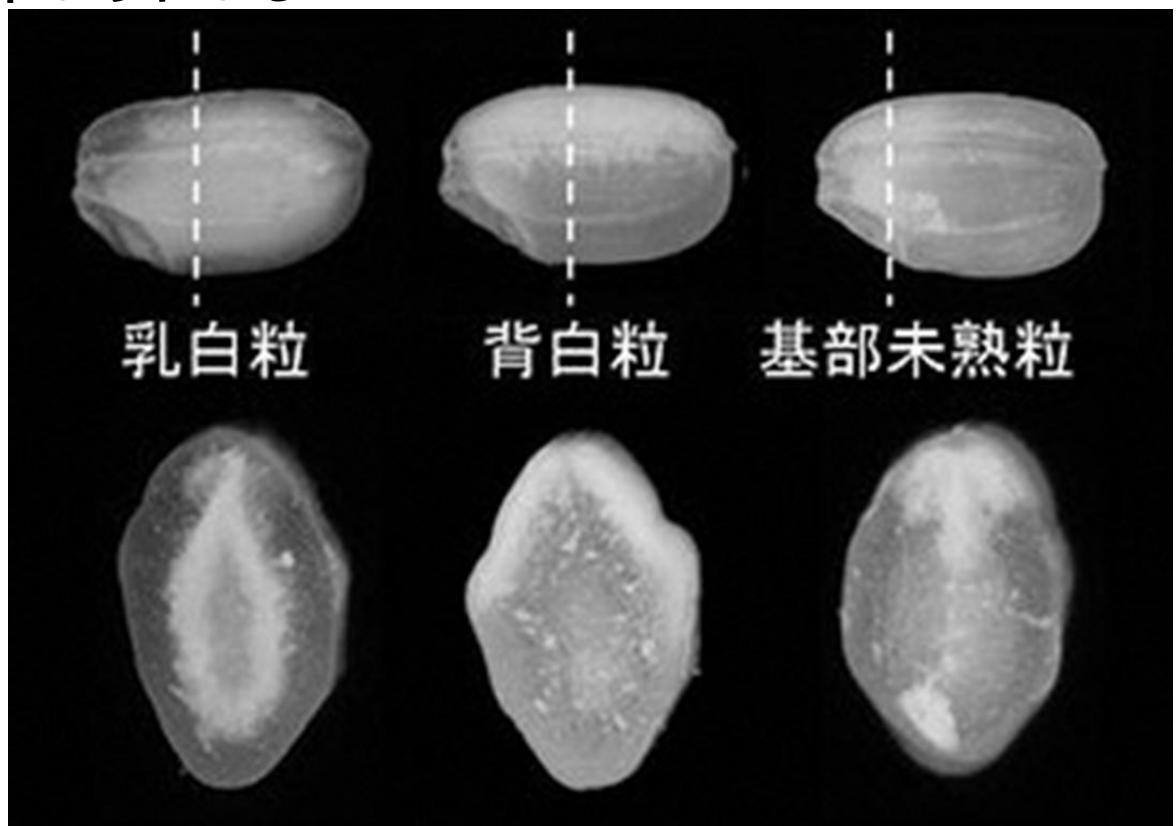


クログワイ
(出典：ルーラル電子図書館 森田弘彦)



オモダカ
(出典：EK-SYSTEM)

4.米からわかること



〈原因〉

(出典：高温による白未熟粒の発生 (森田敏：イネの高温障害と対策 農文協より))

乳白粒：穂肥過剰か、穂肥が早すぎることによる粒数過剰など
背白粒・基白粒：登熟期の窒素不足か、根張り悪く穂肥が吸えていない